



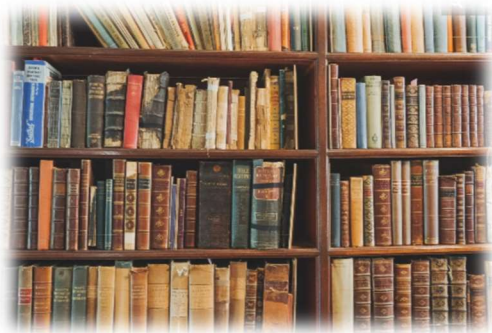
意外と話題にしないことですが「知識」ってどこにありますか？
そのやり取りから「生きて働く知識・技能」について考えていきましょう。

- ❖ 「和書」と「洋書」の違いを考える
人生の中であまり考えたことがないと思う話題を
皆さんに提供したいと思います。

① 和書



② 洋書



【質問】和書と洋書の「違い」をどれくらい
具体的に挙げるができますか？

※読み進まずに考えてください。

=====

- ❖ 「文字が違う」「色使いが違う」などの違いが具体的には挙げる事ができたと思います。
- ❖ しかし、本を整理・貯蔵する方法の違いについては思いが及んだでしょうか？
- ❖ 時代劇等でも和書を置いているシーンを観たことがあるかと思いますが和書は概ね重ねて保存します。

- ❖ というのも大阪府立図書館によると「和書において本を綴じて糊付けした方を背といいます。洋装書の場合は背にも表紙があり、ここが背表紙になります。ほとんどの洋装書には背表紙に書名が記されています。和装書の場合は表紙はなく、背に書名を直接書き入れる場合があります。この時これを背書（セガキ）といいます」と記されています。
- ❖ 洋書は「背表紙」があり、和書は「背表紙」がない。本棚の構造も変わってきますし、本の取り扱いも変わってきます。
- ❖ しかし、このことの違いは、いったいどこからくるのでしょうか。
- ❖ 正確なことは誰にも分からないと思いますので、ここからは、私の見解になります。
- ❖ 和書は一般的に「誦んじる文化（本を頭に入れて暗唱する）」で、誦んじた以上、何度も読む必要がないので積んで保存するのではないかと思います。つまり、知識を「脳内」に蓄積することが本を読む文化になります。
- ❖ しかし、洋書は知識を「脳内」に蓄積する文化ではなく、必要な時に何度も読み返すことを前提にしている。だから「背表紙」を発明し、のちの検索を容易にしたのだと思います。つまり、検索と深く繋がるのではと考えられます。
- ❖ ネット社会の現在は、日常生活で「検索」がなされています。言い換えると日常に食い込んでいる検索文化は、「知識は詰め込むだけでなく、知識を活用しながら問題を解決する、つまり生きて働く知識・技能に相当することを望んでいる」と考えることができるのではないのでしょうか。
- ❖ もし、皆さんが「和書」と「洋書」の違いを自分なりに解釈し、それに対する「納得解」や「最適解」を構築する、いわゆる「仮説」を私にお話してくれたら嬉しいです。